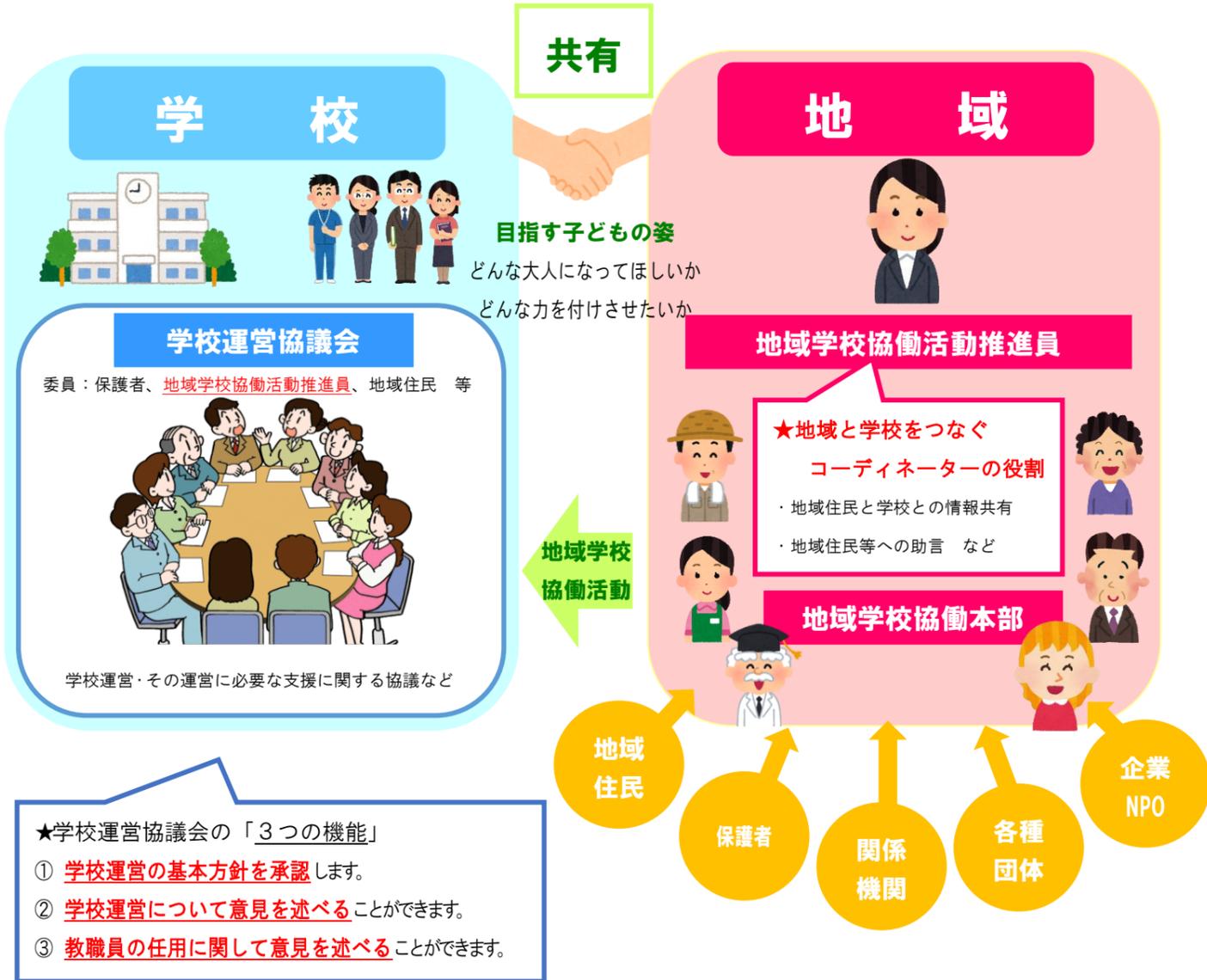


大津市が目指すコミュニティ・スクールの仕組み

学校運営協議会は『学校の応援団』です。学区の子どもたちに、「どんな大人になってほしいか」、「どんな力を付けさせたいか」を話し合い、目指す子どもの姿（目標）を定めます。その目標に向かい、どのような学習をどのように行うのか（効果的な手法）、学校の教育課程とどう関連付けるかなど、地域学校協働活動の具体的な計画を立てていきます。

学校運営協議会で話し合われた目指す子どもの姿（目標）、地域学校協働活動の計画は、学校と地域をつなぐ『地域学校協働活動推進員（学校運営協議会のメンバーから選ばれます）』を通じて共有され、地域の方々にさまざまな教育活動に参加していただきます。



地域学校協働活動って、どんなことをするの？

地域には様々な経験や知識を持った方々がおられます。『目指す子どもの姿』の実現に向けて計画された様々な活動に、その豊富な知識や経験を活かして、子どもたちの豊かな学びをサポートしていただきます。

<たとえば…>

- ・授業やクラブ活動、部活動のサポート
- ・地域学習の支援
- ・学校環境整備
- ・自然体験学習
- ・登下校の見守り活動
- ・放課後や土日、長期休業中の学習支援や居場所づくり
- ・キャリア教育 等

コミュニティ・スクールのメリットと魅力

コミュニティ・スクールには3つのメリットがあるといわれます。

①組織的・継続的な体制の構築＝持続可能性

教職員が異動しても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる、「**持続可能な仕組み**」です。



②当事者意識・役割分担＝社会総がかり

学校運営協議会や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現して行くのかという「**目標・ビジョンを共有**」できます。

③目標・ビジョンを共有した「協働」活動

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働」による取組ができます。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みです。当事者として、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる人すべてに様々な魅力が広がっていきます。

子どもにとっての魅力

- 子どもたちの**学びや体験的な活動が充実**します。
- 自己肯定感**や**他人を思いやる心**が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚**が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって、**安心・安全な生活**ができます。

教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力**を得た学校運営や、「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になります。
- 地域人材を活用**した教育活動が充実します。
- 地域の協力により、**子どもと向き合う時間が確保**できます。

保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解**が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという**安心感**があります。
- 保護者同士や地域の人々との**人間関係が構築**できます。

地域にとっての魅力

- 経験をいかすことで、**生きがいや自己有用感**につながります。
- 学校が社会的つながりの場、地域のよりどころ**になります。
- 学校を核とした**地域ネットワーク**が形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域の防犯・防災体制等の構築**ができます。

学校運営協議会に欠かせない『3つの要素』

地域と共にある学校の運営に備えるべき機能として、以下の3つの要素は欠かせません。

熟 議

- ・当事者意識を持って【**熟慮**】と【**討議**】
- ・「学校や地域の課題」「目標」を【**共有**】

★熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。活発な議論が行われると、多くの人の意見も反映されるようになります。地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、どんな活動を行っていくのか分析・計画も進めていきます。

【熟議のテーマ例】

子どもたちにどんな大人になってほしいか	子どもたちにどんな力をつけたいのか
地域の行事に子どもの学びをどう取り入れるか	校区内あいさつ運動の推進について
歴史の授業に地域教材をどう盛り込むか	学校や地域の合同運動会を企画する
総合的な学習での地域の協力について	子ども安心パトロールの効果的な活動
学校の魅力を地域住民にどうアピールするか	放課後の子どもの居場所づくりについて

「熟議」で提案されたプランを、課題解決に向けた具体的な実践につなげましょう

具体的な活動についての意思決定の場をどう設定するかが大切です。意見の出しっぱなし、話し合いだけで終わることがないように、十分注意したいところです。

協 働

- ・学校運営に地域の人々が【**参画**】
- ・共通の目標に向けて【**連携・協働**】

【大切にしたい3つの視点】

●人の輪を広げるネットワークの構築

楽しくて意義深い活動を通じて仲間を増やすこと、「学校に行ってみようかな」と地域住民や保護者に思ってもらえることなど、「一緒にやってみましょう」という気持ちを大切にしたいものです。

地域には「〇〇名人」と言える様な特技を持った方、知識と経験を持った方がたくさんいらっしゃいます。こうした地域人材や学校教材につなげるコーディネート機能が大事になります。

●協働する楽しさ・喜び・手ごたえがある体験や活動に！

関わる大人たちが、子どもたちの成長に対する喜びを共有し、また自己の可能性に気づき、自己有用感が得られる体験・活動があれば、次の協働がますます発展します。

●学校と地域は「イコール」の関係

学校と地域はパートナーです。一方的な押し付けにならぬように、双方向性を大切にしたいですね。

マネジメント

- ・目標達成に向けた校長のリーダーシップ
- ・地域人材や資源等を生かした学校運営

地域は学びのフィールドです

コミュニティ・スクール

次代を担う子どもたちのために



令和2年（2020年）11月

大津市教育委員会

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3番1号
TEL 077-528-2633 FAX 077-523-5735